

祝 2020 新成人 はたちの抱負



鎌田地区	令和2年1月1日現在
世帯数	8,972 戸
男	9,960 人
女	9,571 人
発行者	鎌田地区公民館 公民館報編集委員会



岡村 大地
南原町会

私は現在一人暮らしをしながら理学療法士の資格を取るため大学で勉強しています。理学療法士は、痛みや怪我の根本原因を分析する「動作分析」「傷害の評価」のプロフェッショナル。スポーツ現場での需要が高く、多くのプロチームでトレーナーとして活躍しています。私は小学校から高校までの10年間野球をやってきました。そのなかで、肘や肩を痛めるなどたくさん怪我也してきました。その度にリハビリをし、治してもらった



小川 愛美
高宮町会

成人式を迎えるにあたって今までの自分を振り返ってみました。私は高校に入学して約半年で学校に行かなくなりしました。夜遊ぶのが楽しくて生活習慣を直すことができず、高校を中退しました。その後コンビニでバイト

ていくうちに今度は将来自分が治す側の人になりたいと思うようになりました。スポーツをする以上怪我はつきものだと思います。しかし、もう一度復帰できるように、そしてまた怪我をして辛い思いをしないようにリハビリや怪我の予防などをして、将来はいろんな人から信頼される理学療法士になりたいと思っています。これからも自分の目標に向かって頑張りたいと思います。

をしました。多くの人が親切にしてくれて、今ではいい思い出の一つです。

現在は飲食店で働いており、毎日いろいろな人に出会います。会社での出来事や悩みを沢山聞きます。私が話を聞くことでその人の気持ちや楽になり、「楽しかった。また明日から仕事頑張るよ」と言ってくださいます。その一言に私はやりがいを感じ

ています。私の中学卒業後は決して胸を張れることではありませんが、今まで経験してきたことは社会人として生きていくことを少し早く学べたと思っています。少しずつですが親にも恩返しができています。今日までの私に関わってくれた人たちに感謝しています。ありがとうございます。

鎌田お宝講座
—第6回—

あなたの知らない 松本城と世界遺産

世界文化遺産登録をめざす「国宝松本城」を
座学と現地見学で学ぶ講座を開催しました。



11月19日は、講師の松本城管理事務所の小山研究専門員が松本城の成り立ちから現在までの歴史と天守の構成や建物の構造などについて、国宝5城と比較しながら具体的な特徴を話されました。

ノミネーション(連続する資産)での登録をめざし、世界遺産登録への第一歩である文化庁の暫定一覧表への記載を当面の目標として研究を重ねていることをお聞きしました。



12月5日は、松本城内を3人の研究専門員から案内いただき、改めて松本城の価値を再認識することができました。

防災体験講座

近年、地球温暖化の影響からか、予想を超えた大きな災害が発生しています。

鎌田地区町内公民館長会の主催で昨年11月12日、山梨県立防災安全センターを24名が訪れ、災害が起きた時に冷静な行動ができる心構えや訓練・対策などについて学ぶ講座を開催しました。



震度7の地震体験(あくらで机の脚をしっかりと掴むと姿勢が安定する)

多くの被災地で復興に携わった山下博史さん(災害・防災ボランティア未来会代表)から話を聴きました。

「災害が起きたとき、まず自分の身を守る『自助』と隣近所で助け合う『共助』で出来ることを行うのが一番で『公

助』は道路の不通などで来れないことが多い。防災訓練は、応急手当てのやり方や炊き出しなど実際に役立つ訓練をしてほしい。避難所ではお金のかからない運営を考えてほしい」と、ごみ箱を利用した簡易トイレの扱い方などを教えてくれました。

地域の防災・安全を見守ってきた火の見櫓

(高宮北・松本市消防団第5分団詰所横)



火の見櫓の始まりは江戸時代。明暦3(1657)年に江戸本郷で発生した大火のあと、火事の早期発見と早期伝達のために作られた。

鎌田地区には2基の火の見櫓(高宮北と笹部2丁目)があり、写真の火の見櫓は国道19号線沿いに建っている。昭和5年の建設で、松本市内に現存する火の見櫓(約150基)では最も古いとされる。特徴は見張り台や踊り場の床が鉄の一枚板になっている。

防災無線の整備や櫓の老朽化、騒音苦情などから全国で火の見櫓の撤去が進んでおり、この火の見櫓も2年後には解体の予定。

鎌田地区民生委員・児童委員協議会 新任紹介(令和元年12月から3年間活動)

私たちが児童福祉を専門的に担当します



主任児童委員

中田 洋子 (井川城3) 永田智恵美 (南原2)



会長 木藤 永子 (征矢野2)

高齢者の方等への訪問活動や子育て支援・相談などを通して、地域の皆様が支え合い・助け合いができる「つながり」を深めていけるよう、30名の委員が力を合わせ地域福祉に尽力していきたく思います。よろしくお願いします。

雑感

「もう一度改札越しに孫を抱く」十年以上も前になるが、初孫が生まれた頃某誌に掲載されたこの川柳に出会い、孫と別れる作者の心情に共感し、自分でも作句するようになった▼川柳と言えばサラリーマンの喜怒哀楽をテーマにしたサラリーマン川柳が有名だが、このごろは高齢化を反映してか老いをテーマにして「そうそうあるある」と共感

し老いを笑い飛ばすシルバール川柳が人気だ。俳句のように風流ではないが、季語もいらず手軽で結構頭の体操にもなっている▼昨年百歳で送った父の介護中に思いついて老老介護を詠んだのが「親の為に付けた手すりに子もすがる」現実を受け入れうまく付き合うのにも結構役に立っているように思う▼日常では、買物に出かける前など「あれとあれメモした紙はどこだろう」何かを思いついて慌ててメモしたのに「走り書き書いた自分が??」何年ぶりかで会って「名を忘れ笑顔で繕う同窓会」このごろは「はしごするむかし居酒屋いま病院」身の回りにネタは尽きない。

(小林 睦和)